

気象データの使い方

気象庁のひまわり画像、気象データを使ったアニメーションの作り方について説明しています

1 ねらい

インターネット上の気象画像を活用してアニメーション化することで、天気の変化のきまりを見つけることができます。

2 使用するwebページなど

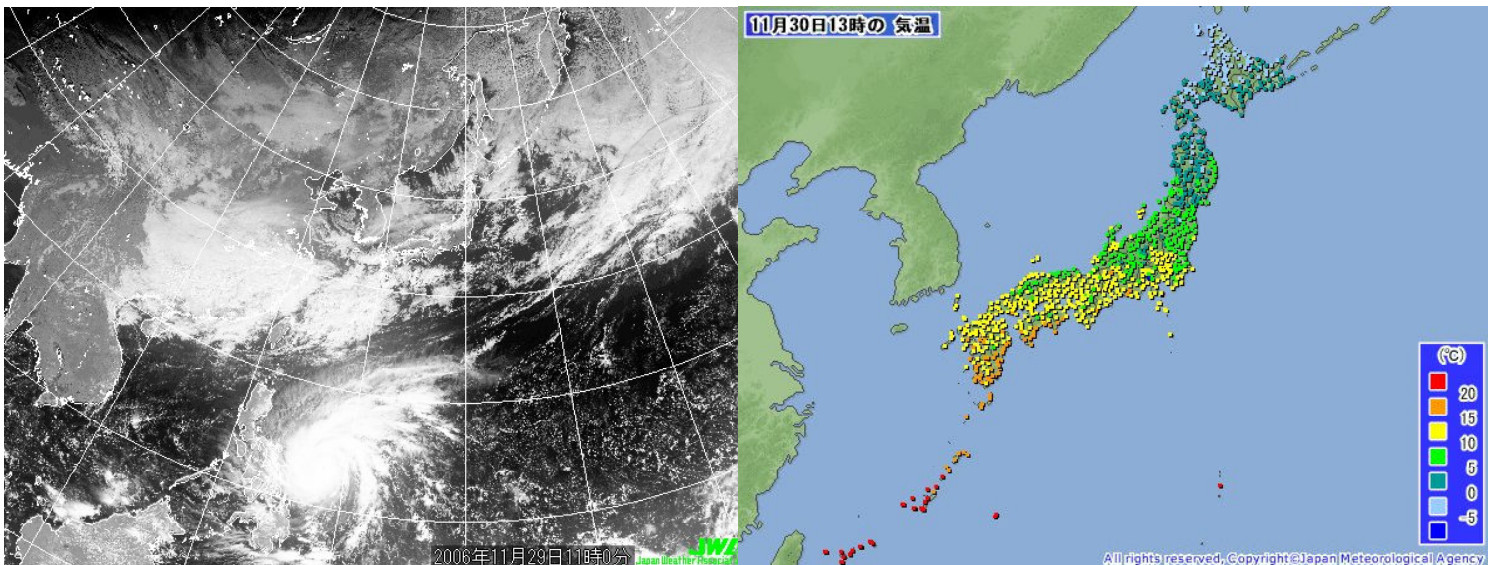
- ・ 気象庁衛星画像 (<http://www.jma.go.jp/jp/gms/>)

衛星画像は、24時間前の画像までダウンロードできます。

- ・ 動画編集ソフト

今回はwindowsについているムービーメーカーを使用しました。

- ・ 気象庁アメダス地図形式 (<http://www.jma.go.jp/jp/amedas/>)



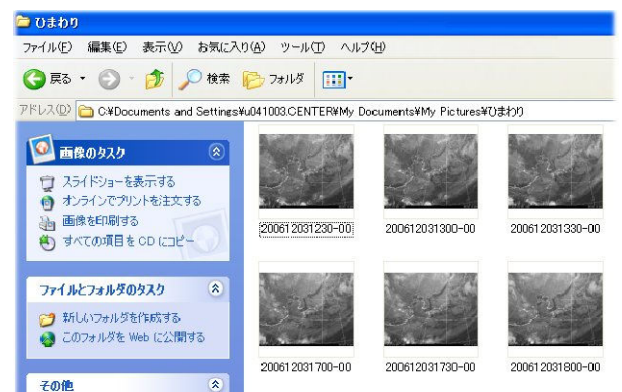
衛星雲画像(赤外)

アメダス地図形式

※衛星雲画像とアメダス地図形式のデータは、気象庁のデータを引用しました。

3 作り方

- ①気象庁の衛星画像のサイトから雲画像の「赤外」を選択し、ダウンロードしてデスクトップ上に保存します。

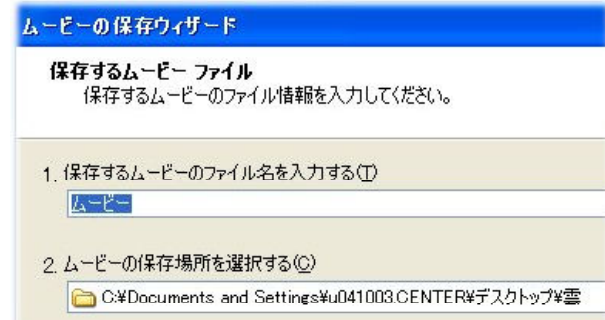


②ムービーメーカーを起動し、デスクトップ上に保存した静止画を次の手順で読み込みます。

「1. ビデオの取り込み」の「画像の読み込み」をクリックし、コレクション上に呼び出します。

③コレクション上の画像を下のタイムライン上にドラッグして貼り付けていきます。

④名前を付けて動画として保存します。



4 観察方法

天気の変化の学習のまとめで使用すると効果的です。雲画像のアニメーションとアメダス画像のアニメーションを比較しながら視聴することで、雲の動きと降水域の移動を関連づけて考えることができます。